

令和8年度 評価規準

教科	体育	学年	第5学年
----	----	----	------

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体ほぐしの運動	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな体ほぐしの運動を行い、仲間と体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動の行い方がわかる。 手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自己や仲間の心と体の状態に気付いたり、仲間と豊かに関わり合ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心と体の関係を理解し、友達と関わり合ったりするなどのねらいに応じた活動を選んでいる。 様々な運動を行って比較することで、気付きや関わり合いが深まりやすい運動を選んでいる。 運動を行うと心と体が軽やかになったことやみんなでリズムに乗って運動をすると楽しさが増したことなどを学習カードに書き、振り返りの時間に発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動に積極的に取り組んでいる。 運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合っている。 運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認めている。 運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。
体の動きを高める運動	<ul style="list-style-type: none"> 体の動きを高めるためのいろいろな運動の行い方を理解し、動きを工夫して体力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体の動きを高める運動の行い方がわかる。 (ア)体の柔らかさを高めるための運動 体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることをねらいとして行う運動ができる。 (イ)巧みな動きを高めるための運動 人や物の動きに対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることをねらいとして行う運動ができる。 (ウ)力強い動きを高めるための運動 自己の体重を利用したり、人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって、力強い動きを高めることをねらいとして行う運動ができる。 (エ)動きを持続する能力を高めるための運動 一つの運動又は複数の運動を組み合わせで一定の時間続けて行うことによって、動きを持続する能力を高めることをねらいとして行う運動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の体力の状況を知ったり、様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付けている。 体の動きを高めるために、自己に合った運動の行い方を選んでいる。 どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。 グループで工夫した運動の行い方を、他のグループに例示して見せたり、言葉で伝えたりしている。 感想を伝える場面で、言葉のかけ方や並び方などの条件を工夫することで楽しく運動が行えたことを他者に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 体の動きを高める運動に積極的に取り組んでいる。 運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合っている。 運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認めている。 運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。

令和8年度 評価規準

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとめりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
マット運動	<p>・技に挑戦したり、技を組み合わせたり、仲間と動きを合わせたりする。</p>	<p>・マット運動のいろいろな技の行い方がわかる。</p> <p>・自分の力に合った回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。</p> <p>・選んだ技を自己やグループで繰り返すことができる。</p> <p>・技を選んでそれらにバランスやジャンプなどを加えて組み合わせたり、ペアやグループで動きを組み合わせて演技をつくったりできる。</p> <p>○開脚前転(更なる発展技:易しい場での伸膝前転)</p> <p>○補助倒立前転(更なる発展技:倒立前転, 跳び前転)</p> <p>○伸膝後転(更なる発展技:後転倒立)</p> <p>○倒立ブリッジ(更なる発展技:前方倒立回転)</p> <p>○ロンダート</p> <p>○補助倒立(更なる発展技:倒立)</p>	<p>・マット運動のポイントを理解し、自分や友達の動きを照らし合わせて課題を見付けている。</p> <p>・見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自分の課題に適した練習の場を選んでいる。</p> <p>・グループの中で観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして見付けた、演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり映像を活用して発表したりするなどして伝えている。</p>	<p>・マット運動の基本的な技や発展技、それらの技を組み合わせることに積極的に取り組んでいる。</p> <p>・互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。</p> <p>・器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。</p> <p>・技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。</p> <p>・けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。</p>
鉄棒運動	<p>・できそうな技に挑戦したり、できる技を組み合わせたりして、鉄棒運動を楽しむ。</p>	<p>・鉄棒運動のいろいろな技の行い方がわかる。</p> <p>・自分の力に合った支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。</p> <p>・選んだ技を自己やグループで繰り返したり、組み合わせたりすることができる。</p> <p>○前方支持回転(更なる発展技:前方伸膝支持回転)</p> <p>○片足踏み越し下り(更なる発展技:横とび越し下り)</p> <p>○膝掛け上がり(更なる発展技:もも掛け上がり)</p> <p>○前方もも掛け回転</p> <p>○逆上がり</p> <p>○後方支持回転(更なる発展技:後方伸膝支持回転)</p> <p>○後方もも掛け回転</p>	<p>・鉄棒運動のポイントを理解し、自分や友達の動きを照らし合わせて課題を見付けている。</p> <p>・見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自分の課題に適した練習の場を選んでいる。</p> <p>・グループの中で観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして見付けた、演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり映像を活用して発表したりするなどして伝えている。</p>	<p>・鉄棒運動の基本的な技や発展技、それらの技を組み合わせることに積極的に取り組んでいる。</p> <p>・互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。</p> <p>・器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。</p> <p>・技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。</p> <p>・けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。</p>

令和8年度 評価規準

<p>跳び箱運動</p>	<p>・いろいろな技に挑戦し、安定した跳び方ができるようにする。</p>	<p>・跳び箱運動のいろいろな技の行い方がわかる。 ・自分の力に合った切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。 ○かかえ込み跳び(更なる発展技:屈身跳び) ○伸膝台上前転 ○頭はね跳び(更なる発展技:前方屈腕倒立回転跳び)</p>	<p>・跳び箱運動のポイントを理解し、自分や友達の動きを照らし合わせて課題を見付けている。 ・見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自分の課題に適した練習の場を選んでいる。 ・グループの中で観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして見付けた、演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり映像を活用して発表したりするなどして伝えている。</p>	<p>・跳び箱運動の基本的な技や発展技、それらの技を組み合わせることに積極的に取り組んでいる。 ・互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。 ・器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。</p>
--------------	--------------------------------------	---	--	--

令和8年度 評価規準

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
短距離走・リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい走り方を身に付けて、短距離走の日本記録に挑戦したり、みんなの力を生かす作戦を工夫して、チームの合計記録を縮めることに挑戦したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走やリレーの行い方がわかる。 ・スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。 ・体を軽く前傾させて全力で走ることができる。 ・テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーのポイントがわかり、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に適した練習方法や練習の場を選んでいく。 ・自分の能力に適した競走のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいく。 ・短距離走・リレーのポイントや友達のよい動きなどを、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーに積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・短距離走やリレーの場の危険物を取り除くなど、用具の安全に気を配っている。
走り高跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から力強く踏み切って高く跳び、自分の記録に挑戦したり、走り高跳びの競争をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びの行い方がわかる。 ・5～7歩程度のリズムカルな助走をすることができる。 ・上体を起こして力強く踏み切ることができる。 ・はさみ跳びで、足から着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びのポイントがわかり、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に適した練習方法や練習の場を選んでいく。 ・自分の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいく。 ・走り高跳びのポイントや友達のよい動きなどを、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びに積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・走り高跳びの場の危険物を取り除いたり、整備したりするとともに、用具の安全に気を配っている。
走り幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から力強く踏み切って遠くに跳び、自分の記録に挑戦したり、走り幅跳びの競争をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳びとソフトボール投げの2種競技の行い方がわかる。 【走り幅跳び】 ・7～9歩程度のリズムカルな助走をすることができる。 ・幅30～40cm程度の踏切りゾーンで力強く踏み切ることができる。 ・かがみ跳びから両足で着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳びのポイントがわかり、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に適した練習方法や練習の場を選んでいく。 ・自分の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいく。 ・走り幅跳びのポイントや友達のよい動きなどを、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳び競技に積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・走り幅跳びの場の危険物を取り除いたり、それぞれの場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

令和8年度 評価規準

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水泳運動	<p>・安全確保に繋がる動きができるようになる。平泳ぎやクロールで長く泳げるようになる。</p>	<p>【クロール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロールの行い方がわかる。 ・手を左右交互に前方に伸ばして水に入れ、水を大きくかくことができる。 ・柔らかく足を交互に曲げたり伸ばしたりして、リズムカルなばた足をする事ができる。 ・肩のローリングを用い、体を左右に傾けながら顔を横に上げて呼吸をすることができる。 ・左右の手を入れ替える動きに呼吸を合わせ、続けて長く泳ぐことができる。 <p>【平泳ぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平泳ぎの行い方がわかる。 ・両手を前方に伸ばし、ひじを曲げながら円を描くように左右に開き、水をかくことができる。 ・足の親指を外側に開いて左右の足の裏や脚の内側で水を挟み出すとともに、キックの後に伸びの姿勢を保つことができる。 ・手の動きに合わせて呼吸することができる。 ・キックをした勢いを利用してしばらく伸び、続けて長く泳ぐことができる。 <p>【安全確保につながる運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確保につながる運動の行い方がわかる。 ・顔以外の部位がしっかりと水中に入った背浮きの姿勢を維持することができる。 ・タイミングよく呼吸をしたり、手や足を動かしたりして、続けて長く浮くことができる。 ・息を一度に吐き出し呼吸することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや掲示物などを活用して、水泳運動のポイントと自分や仲間の動きを照らし合わせ、課題を見付けている。 ・クロールや平泳ぎで進んだ距離や、浮き沈みの回数、背浮きの時間などを自分で決めて挑戦し、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に応じた練習の場や仕方を選んでいる。 ・自分で選んだ泳ぎ方で続けて長く泳いだり、決まった距離でのストローク数に挑戦したりするなど、自分や友達の能力に応じた記録への挑戦の仕方を選んでいる。 ・ペアやグループで互いの動きを見合ったり、練習の補助をし合ったりすることを通して、見つけたポイントやお互いの課題に適した練習方法を伝えている。 ・友達とお互いの動きのよさを確かめ合ったり称賛し合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳運動が自己保全のために必要であることを生かし、クロールや平泳ぎをしたり、背浮きや浮き沈みをしたりするなどの水泳運動に積極的に取り組んでいる。 ・自己や仲間の課題を解決するための練習では、練習場所やレーンの使い方、補助の仕方などの約束を守り、仲間と助け合っている。 ウ 水泳運動で使用する用具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・課題を見付けたり、解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・プールの底・水面などに危険物がないかを確認したり、自己の体の調子を確認してから泳いだり、仲間の体の調子にも気を付けるなど、水泳運動の心得を守って安全に気を配っている。

令和8年度 評価規準

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとめりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ネット型(ソフトバレーボール)	<ul style="list-style-type: none"> 攻めの組み立て方を工夫して、ソフトバレーボールをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトバレーボールの行い方がわかる。 自陣のコート(中央付近)から相手コートに向けサービスを打ち入れることができる。 ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。 味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。 片手、両手を使って、相手コートにボールを打ち返すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが楽しくソフトバレーボールに参加できるように、プレイヤーの人数やコートの広さ、プレイの制限、得点の仕方などの規則を工夫している。 チームの特徴に応じた作戦を選び、自分の役割を確認している。 課題の解決のために、自分や友達が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトバレーボールの簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組んでいる。 ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ゲームの勝敗を受け入れている。 ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。
ゴール型(ハンドボール)	<ul style="list-style-type: none"> パスやシュートをしながら攻め方を工夫して、ハンドボールをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドボールの行い方がわかる。 近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。 相手に捕られない位置でドリブルをすることができる。 ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることができる。 ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが楽しくハンドボールに参加できるように、プレイヤーの人数やコートの広さ、プレイの制限、得点の仕方などの規則を工夫している。 チームの特徴に応じた作戦を選び、自分の役割を確認している。 課題の解決のために、自分や友達が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドボールの簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組んでいる。 ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ゲームの勝敗を受け入れている。 ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

令和8年度 評価規準

ゴール型(フラッグフットボール)	・作戦を基に、攻め方や動き方を工夫して、フラッグフットボールをする。	・フラッグフットボールの行い方がわかる。 ・近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。 ・ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。 ・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてタッチダウンすることができる。 ・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備することができる。	・誰もが楽しくフラッグフットボールに参加できるように、プレイヤーの人数やコート広さ、プレイの制限、得点の仕方などの規則を工夫している。 ・チームの特徴に応じた作戦を選び、自分の役割を確認している。 ・課題の解決のために、自分や友達が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って友達に伝えている。	・フラッグフットボールの簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・ゲームの勝敗を受け入れている。 ・ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。
------------------	------------------------------------	---	--	---

令和8年度 評価規準

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表現運動「対決！」	<ul style="list-style-type: none"> 生活や自然, 社会のいろいろな題材の中から, 印象的なできごとを見つけ, 表したいイメージを感じを込めて踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現「対決！」の行い方がわかる。 表現「対決！」のいろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え, 表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現したり, グループで簡単なひとまとまりの動きにして表現したりすることができる。 題材から動きの変化や起伏の特徴を捉え, そこに感情の変化や起伏を重ねていくことができる。 表したい感じやイメージを, 素早く走る一急に止まる, ねじる一回る, 跳ぶ一転がるなどの動きで変化を付けたり繰り返したりして, 激しい感じや急変する感じをメリハリ(緩急・強弱)のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現「対決！」のポイントがわかり, 自分の課題の解決策を考えたり, 課題に応じた見合いや交流の仕方などを選んでいく。 表現したい「イメージを強調する」ために, 差のある動きや群の動きなどで変化を付ける方法を選んでいく。 表現したい「イメージを伝える」ために, 一番盛り上げたい場面を明確にし, 急変する場面や取り入れる群の動きを選んでいく。 表したい感じやイメージが表現され, 踊りの特徴を捉えているかなどを確認するための仕方を選んでいく。 課題の解決のために友達と見合ったところを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現「対決！」の表したい感じやイメージを表現する運動に積極的に取り組んでいる。 表現に取り組む際に, 互いの動きや考えのよさを認め合っている。 表現にグループで取り組む際に, 仲間と助け合っている。 表現を行う場の設定や用具の片付けなどで, 分担された役割を果たしている。 活動する場所の危険物を取り除くとともに, 仲間とぶつからないよう, 場の安全に気を配っている。
フォークダンス・世界のフォークダンス	<ul style="list-style-type: none"> 「マイム・マイム」「コロブチカ」「グスタフススコール」など, 世界の踊りの特徴を捉えて踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> フォークダンスの行い方がわかる。 外国の踊り特徴を捉え, 基本的なステップや動きを身に付けて, 音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流することができる。 マイム・マイム(イスラエル)などのシングルサークルで踊る力強い踊りでは, みんなで手をつなぎ, かけ声をかけて力強くステップを踏みながら移動して踊ることができる。 コロブチカ(ロシア)などのパートナーチェンジのある軽快な踊りでは, パートナーと組んでスリーステップターンなどの軽快なステップで動きを合わせたり, パートナーチェンジをスムーズに行ったりしながら踊ることができる。 グスタフス・スコール(スウェーデン)などの特徴的な隊形と構成の踊りでは, 前半の厳かな挨拶の部分と後半の軽快なスキップやアーチくぐりなどの変化を付けて, パートナーや全体でスムーズに隊形移動しながら踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国のフォークダンスのポイントがわかり, 自分の課題の解決策を考えたり, 課題に応じた見合いや交流の仕方などを選んでいく。 踊りの特徴を捉えているかなどを確認するための仕方を選んでいく。 課題の解決のために友達と見合ったところを他者に伝えている。 ペアのグループやクラス全体で踊り, 身に付けた踊りの特徴が出ているかを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国のフォークダンスで交流したりする運動に積極的に取り組んでいる。 フォークダンスに取り組む際に, 互いの動きや考えのよさを認め合うこと。 フォークダンスにグループで取り組む際に, 仲間と助け合うこと。 フォークダンスを行う場の設定や用具の片付けなどで, 分担された役割を果たすこと。 活動する場所の危険物を取り除くとともに, 仲間とぶつからないよう, 場の安全に気を配ること。

令和8年度 評価規準

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
心の発達	<ul style="list-style-type: none"> 心は、人との関わり、あるいは自然とのふれあいなど、様々な生活経験や学習を通して、年齢とともに発達することを理解できるようにする。 心の発達について、自己の経験と学習したことを関連付けて、よりよく発達させる適切な方法を考えることができるようにする。 心の発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 心は、感情、社会性、思考力など様々なはたらきの総体として捉えることができることがわかる。 心は多くの人との関わりや自然とのふれあいなど様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することがわかる。 心が発達することで、自分の感情をコントロールしたり、相手の気持ちや立場を理解したりすることができるようになることや筋道を立てて考えたりすることができるようになることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心はどのように成り立っているのかを調べたり、心は体のどこにあるのかを考えたりして、説明している。 心(感情、社会性、思考力など)は、どのように発達してきたのか、小さいころの自分と比べて考え、説明している。 自分の心はどんなことを通して発達してきたのか、自分の経験を振り返って人との関わりなどから考え、他者に伝えている。 よりよく心を発達させるための自己の課題を見付け、これからどんなことがしてみたいかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の成り立ちやそのはたらきに関心をもち、心が自分の小さいころと比べてどのように変わってきたか、進んで小さいころを思い出して比較しようとしている。 自分の感情をコントロールしたり、相手の気持ちや立場を理解したり、自分の気持ちをうまく相手に伝えたりして、心をより豊かにしていこうとしている。 自己の気持ちを上手に伝えられるようになるなど、他者とよりよいコミュニケーションを取れるようになるようとしている。
心と体の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 心と体の関わりを知り、心と体は深く影響し合っていることを理解できるようにする。 心と体の関わりについて、自己の経験と学習したことを関連付けて考えることができるようにする。 心と体の関わりについて資料を見たり、生活を振り返ったりするなど、意欲的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 不安や緊張時には、動悸が激しくなったり、腹痛を起こしたりすること、体調が悪いときには、集中できなかつたり、落ち込んだ気持ちになつたりすること、体調がよいときには、気持ちが明るくなつたり、集中できるようになつたりすることなど、心と体は深く影響し合っていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊張したときや、うれしいときに体の状態がどうなるかを考え、説明している。 睡眠不足や適切な運動をしたときに心の状態がどうなるかを考え、説明している。 心と体はどのようにつながっているのかを調べ、発表している。 自分のふだんの生活の中で、心と体が影響し合っていると思うことについて考え、記している。 	<ul style="list-style-type: none"> 心配事があったときや緊張したときの体調の変化や、体の調子が悪かったとき・よかつたときの心の状態を、自分の経験に照らし合わせて具体的に思い出そうとしている。

令和8年度 評価規準

<p>不安やなやみへの対処</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があることを知り、呼吸法などの対処のしかたをできるようにする。 不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選ぶことができるようにする。 不安や悩みの対処法を進んで考え、意欲的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うことなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることを理解している。 自己の心に不安や悩みがあるという状態に気付くことや不安や悩みに対処するために様々な経験をすることは、心の発達のために大切であることを理解している。 不安や悩みへの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の悩みにはどんなものがあり、どんなことについていちばん悩んでいるのかを調べ、他者に伝えている。 不安や悩みへの対処法にはどんなものがあるのかを話し合い、自分に合った適切な対処法はなにかを考え、選択している。 心や体の緊張を和らげるための深呼吸を試し、深呼吸する前と後ではどんな変化があるのかを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな悩みの例に注目し、自分も同じような悩みはないか照らし合わせるなど、それぞれの項目に関心をよせている。 不安や悩みの対処の仕方に関心をもち、自分に合った対処の仕方を進んで考えようとしている。
<p>事故やけがの起こり方</p>	<p>けがや事故は人の行動と周りの環境が原因で起こり、人の行動はそのときの心の状態や体の調子と関係していることを理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> けがや事故が起こる原因を人の行動と周りの環境に分け、説明できるようにする。 けがや事故が起こる原因について資料を見たり、生活を振り返ったりするなど、積極的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、けがをする人や死亡する人が少なくないことがわかる。 けがや事故の多くは、人の行動と周りの環境が原因で起こっていることがわかる。 人の行動は、慌てていた、疲れていたなど、そのときの心の状態や体の調子とも関係していることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> けがや事故は何が原因で起こるのか調べ、説明している。 学校生活でのけがは、いつどこで多く起こっているのかを知り、その理由を人の行動と環境から説明している。 様々な状況におけるけがや事故が起こる原因を人の行動と周りの環境に分けて考え、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や日常の生活での事故やけがの原因に関心をもち、危険予測に進んで取り組もうとしている。 事故やけがの起こり方の原則に照らし合わせて危険予測をし、いろいろな場面での事故やけがの具体的な原因を進んで探ろうとしている。

令和8年度 評価規準

<p>交通事故の防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の防止には、周囲の危険に気づくこと、的確な判断の下に安全に行動すること、安全な環境づくりが必要であることを、理解できるようにする。 自己の周囲の環境を振り返り、危険の予測や回避の方法を考え、説明できるようにする。 交通事故の防止について、生活を振り返ったり、危険の予測や回避の方法を考えたりするなど、積極的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の防止には、学校や地域でのけがの防止と同じように、危険を予測し、正しい判断をして安全な行動をとることが大切であることがわかる。 交通事故を防止するために様々な環境づくりが行われていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故はどんな場所で、どんなときに起こりやすいのかを理解して、説明している。 ある場面における交通事故の危険を予測し、事故にあわないための安全な行動を考えて、記している。 交通事故を防ぐための安全な環境づくりとしてカーブミラーや横断禁止の標識をどこに設置すればよいのかを考え、その理由を説明している。 自分の家の近くや通学路で交通事故が起きそうな場所を思い浮かべて、交通事故を防ぐ安全な行動を考えて、その理由を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険を予測した場面の中から、交通事故に関連した危険な場面での行動の仕方について、けがの防止の原則に進んであてはめてみようとしている。
<p>学校や地域でのけがの防止 犯罪被害の防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域でのけがの防止には、周囲の危険に気づくこと、的確な判断の下に安全に行動すること、安全な環境を整えることが必要であることを、理解できるようにする。 自分のけがに関わる経験を振り返り、危険の予測や回避の方法を考え、説明できるようにする。 学校や地域でのけがの防止について、生活を振り返ったり、危険の予測や回避の方法を考えたりするなど、積極的に学習に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域でのけがを防ぐには、ルールを守るとともに、危険を予測して、正しい判断をし、安全な行動をとることが大切であることがわかる。 学校や地域でのけがを防ぐには、危険な場所の点検や修理などを通して、安全な環境をつくることも必要であることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> けがにつながる「かくれた危険」を見つけ、その理由を説明している。 どうすれば学校や地域でのけがを防ぐことができるのかを調べ、説明している。 ある場面にどんな危険が潜んでいるのか危険の予測をし、安全な行動の仕方を考え、記している。 学校や地域では危険を防ぐためにどのような安全な環境づくりが行われているのかを調べ、発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> けがの防止の原則に関心をもち、学校生活で危険を予測した様々な場面について、進んであてはめてみようとしている。 学校や地域、家庭における安全な環境づくりについて、どのような工夫や備えをしているのか、進んで調べようとしている。
<p>けがの手当て</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自らできる簡単な手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることを知り、手当ができるようにする。 自分のけがに関わる経験を振り返ったり、学習したことを活用したりして、けがの適切な手当の方法を考えたり、選んだりできるようにする。 けがの手当について、これまでの経験を振り返ったり、実習に取り組んだりして、積極的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> けがをしたときには、けがの種類や程度などをできるだけ早く判断することが大切であることを理解している。 軽いけがのときはすばやく自分で手当をすることで、けがの悪化を防ぎ、治りも早くなることがわかる。 自分で手当ができない大きなけがのときや、自分で手当ができるかどうか判断がつかないときは、すぐに近くの大人に知らせることが大切であることを理解している。 自分でできる手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、けがをしたところを冷やすなどの方法があることを知り、けがに合った適切な手当の仕方を選んで簡単な手当ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で起きやすいけがをグラフから読み取っている。 けがをしたり、けがをしている人を見たりしたときに、まず何をすればよいのかを調べ、発表したりしている。 手当の仕方の原則を知り、いろいろなけがの手当について他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が校庭でけがをしたときのことを想定して、どのように行動すればよいのかを進んで考えている。